

オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第85号

2019年2月1日

<http://www.australianstudies.jp/>

1. オーストラリア学会 2019 年度総会・オーストラリア学会 30 周年記念国際大会概要

オーストラリア学会は2019年12月に創設30周年を迎えることを記念して、従来の全国大会（研究発表）の場を、「オーストラリア学会30周年記念国際大会/2019 ASAJ International Conference」として開催します。中国オーストラリア学会の協力を得て、若手研究者を含む国際的な学術交流を図るとともに、オーストラリア研究の新たな方向性を探ります。本大会は、基調講演、2つのパネル、個別報告セッション、日中の若手研究者によるセッションから構成され、2日目の基調講演および開催校・青山学院大学企画のパネルは日英の同時通訳が付き、それ以外の発表の使用言語は英語のみとなります。なお、本大会は豪日交流基金の助成を受け、青山学院大学総合文化政策学会との共催で行われます。

テーマ：The Forefront of Australian Studies: Interaction and Diversity

日時：2019年6月15日(土)・16日(日)

会場：青山学院大学 青山キャンパス (〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25)

※会場アクセス <https://www.aoyama.ac.jp/outline/campus/access.html>

担当：飯笹佐代子（青山学院大学総合文化政策学部）：s-iizasa@ccs.aoyama.ac.jp

※プログラムは変更される可能性があります。詳細は会報次号にてお知らせいたします。

○6月15日(土)

10:00 開会セレモニー/Opening Ceremony

10:30-12:30 Session 1 : Australian Literature

Session 2 : Social and Cultural Changes in Australia

12:30-14:00 昼食/Lunch

14:00-14:45 Dialogue on Translation of Australian Literature

報告者/Speakers : LI Yao (Beijing Foreign Studies University)

有満保江 (大妻女子大学)

15:00-17:45 Panel 1 : Australia in Asia, Asia in Australia

報告者/Speakers : David WALKER (Deakin University)

CHEN Hong (Eastern China Normal University)

石井由香 (静岡県立大学)

討論者/Discussants : ZHANG Yongxian (Renmin University of China)

藤岡伸明 (静岡大学)

懇親会/Conference Dinner

○6月16日(日)

9:00-9:45 特別講演/Special Lecture (同時通訳付き) Melanie OPPENHEIMER

(University of Tokyo / Flinders University)

10:00-12:30 Panel 2 : 多文化社会とアート-オーストラリアにおける文化創造の最前線/Multicultural Society and Art: The Frontiers of Cultural Creation in Australia (同時通訳付き)

特別講演/Special lecture: 片岡真実 (森美術館チーフ・キュレーター/2018年シドニー・ビエンナーレ芸術監督)

- 報告者/Speakers : 徳 仁美 (オーストラリア大使館)
 湊 圭史 (同志社女子大学)
 飯笹佐代子 (青山学院大学) + 青山学院大学総合文化政策学会、ほか
- 討論者/Discussant: 佐和田敬司 (早稲田大学)、ほか
- 12:30-13:00 昼食/Lunch
- 13:00-14:30 映画上映/Film Screening
 「私たちが誇るもの/The Baulkham Hills African Ladies Troupe」
 (ロス・ホーリン監督・オーストラリア)・2017年 UNHCR 難民映画国際上映作品
 ＊字幕作成：青山学院大学総合文化政策学部学生
- 14:30-15:00 総会/ General Meeting of the ASAJ
- 15:15-17:00 Session 3: Economic and Political Transformation of Australia
 Work in Progress Session
- 17:00 閉会/Closing

2. 第10期第6回理事会報告

日 時：2018年12月2日(日) 15:00～17:00

場 所：早稲田大学 早稲田キャンパス 26号館 1103会議室

出席者：花井清人、石井由香、鎌田真弓、加藤めぐみ、南出眞助、佐和田敬司、堤 純 (以上、理事、ABC順)

委任状：11通 (理事)、白江英司、多田稔 (以上、監事)

【報告事項】

- (1) 加藤理事より編集業務報告があった。
- (2) 花井理事より会報発行、HP更新などに関する総務業務報告があった。
- (3) 佐和田理事より AJF 助成金の運用状況、AJF 企画情報発信に関する企画業務報告があった。
- (4) 石井理事より会計中間報告があった。3年間の会費未納による退会者の問題が確認された。
- (5) 鎌田理事より FASIC 6への参加報告があった。
- (6) 鎌田理事より12月8日に開催される JCASA (地域研究学会連絡協議会) 2018年度総会に参加予定であるとの報告があった。
- (7) 鎌田理事より2019年度オーストラリア学会30周年記念国際大会の準備状況および今後の予定に関する報告があった。
- (8) 鎌田理事よりメール不通の会員への連絡に関して報告があった。

【議題：事業計画】

- (1) 加藤理事より学会誌(第32号)刊行の予定に関し報告があり、了承された。
- (2) 花井理事より今後の会報発行予定に関して報告があり、了承された。
- (3) 佐和田理事より AJF 助成金申請に関し、2019年度オーストラリア学会30周年記念国際大会への助成申請が決定され既に入金済みであること、2020年度全国研究大会への助成申請を行う旨の報告があり、了承された。
- (4) 佐和田理事、南出理事より地域研究会に関して、第28回地域研究会関西例会を開催予定であるとの報告があり、了承された。

【議題：審議事項】

- (1) 加藤理事より学会誌の残部の扱いについて提案があり、学会誌の寄贈先については定期的に見直す必要があるものの、現状の寄贈先への送付は当面続けることが了承された。また、学会誌の印刷部数を第32号から300部から250部へと減らすことが了承された。
- (2) 加藤理事より国際文献社での過去の学会誌保管分に関して提案があり、基本的には破棄の方向で了承されたが、実際に残す部数なども含めて編集担当理事で原案を作成し、MLで審議検討することが了承された。
- (3) 加藤理事より再々査読に関する次期理事会への申し送り事項などが確認された。あわせて、学会誌の投稿要領の見直しと投稿申込書の区分について、編集担当理事で原案を作成し、MLで審議検討することが了

承された。

- (4) 鎌田理事より国際文献社との契約更新に関して提案があり、事務局との費用削減の可能性を確認することを条件に承認された。
- (5) 鎌田理事より 2020 年度全国研究大会を北九州市立大学で開催の提案があり、了承された。
- (6) 花井理事より入会者・退会者一覧が提示され、承認された。

3. 国際会議参加報告：第 6 回 Foundation of Australian Studies in China Conference

小野塚和人（神戸外語大学）

FASIC の研究大会に参加できたことは、筆者にとって代えがたい財産となった。FASIC への参加が実現したのは、ひとえにオーストラリア学会 (ASAJ) の先輩方の努力の賜物である。地道な学術研究と学会運営に関するさまざまな苦労があったからこそ、筆者が本会に参加でき、こうした参加報告を記せるのである。普段知り合う機会の少ない専門領域外の研究者に出会ったことを含め、本会への参加は大きな影響を筆者に残した。大会参加への渡航助成を頂いたことを含め、この機会を頂いたことに、深謝申し上げます。

2018 年 11 月 1 日から 3 日にかけて行われた FASIC 6th Conference (テーマ: Global Connections: Space, Place and Shared Destiny) に鎌田真弓代表理事、堤純理事と共に参加し、研究報告を行ってきた。宿泊先や身の回りのことも含め、最初から最後まで FASIC の方々のおもてなし・ホスピタリティは素晴らしいものだった。これを実現するには主催者側の相当な努力が伴ったと容易に推察される。主催者の皆様方、ボランティアスタッフの方々に、記して心からの御礼を申し上げます。

中国国内の豪州社会の研究は時流に乗っている、あるいは、「勢い」があるように感じられた。本会合の参加者には、豪中の各大学の研究科長・所長級の研究者が目立った。特に、豪州側の政治力のある研究者たちがはるばる中国の地方都市にまで来ていることを思うと、如何に豪中関係が強く、良好であるか、との印象を受ける。実際、中国には豪州社会の研究センターが 40 近くも存在し、近年になって急増してきたという。そうした「勢い」は中国側の研究者達にも見て取れた。それまで穏やかに懇談していた中国側の研究者たちが、報告となると、豪州側の外交戦略や対中認識を辛辣かつ攻撃的に批判しはじめる場面がしばしば見られた。これに対し、豪州側の研究者も誠実に返答をしていた。豪州に対する認識は、日本と中国の間でさまざまな点で相違があるように感じた。

実質的に 3 日間に渡って参加者と交流し、帰国の途に就く頃には、それまで見知らぬ人たちに親しみを覚えて帰国できるまでになった。生まれた関係性を大事にしつつ、今後も豪州社会の研究に貢献していきたいと考えている。鎌田代表理事、会計担当の石井理事をはじめ、本会への参加にご尽力頂いた先生方に改めて御礼申し上げます。

4. 第 27 回地域研究会（関西例会・福岡会場）報告

南出真助（追手門学院大学）

2018 年 10 月 13 日 (土) 14:00~17:00 に福岡市の西南学院大学にて、共通テーマ「現代オーストラリアの人権問題」と題し、2つの発表とそれをめぐる質疑応答を行った。発表①は藤田智子（九州大学）「現代オーストラリアにおける生・身体・家族——代理懐胎をめぐる」。内容は「生殖補助医療」の進歩においてもとくに問題が多いとされる「代理懐胎」に焦点をあてたものであった。宗教上の問題、報酬の有無、親権をめぐるトラブルなどに関する研究例が紹介され、同性婚における新たな問題等についても言及があった。オーストラリア国内だけではなくアジア諸国をも巻き込む問題として、多方面からの質問が相次いだ。

発表②は奈須祐治（西南学院大学）「オーストラリアにおけるヘイト・スピーチ規制——『人権法モデル』の可能性と限界」。オーストラリアのヘイト・スピーチ規制法は、連邦・州によって人権法型、刑事法型、その併用とさまざまである。発表内容は、人権法型のメリット、デメリットを対照しながらも、マイノリティーのエンパワーのためには人権法型の規制が有効であるという論旨が展開された。比較対象として日本国内の事例も紹介され、参加者全員が身近な問題として議論に加わることができた。

5. 第 28 回地域研究会（関西例会）予告

* 下記の要領で実施予定です。詳細は会報次号に掲載します。

共通課題：「オーストラリア短期留学／スタディーツアーの教育効果と問題点」（仮）

日 時：2019 年 4 月 20 日 (土) 14:00~17:00

場 所：茨木市西安威 2-1-15 追手門学院大学 会場は未定（変更の可能性あり）。

連絡先：追手門学院大学 国際教養学部 南出眞助 minamide@otemon.ac.jp

〔趣旨〕

標記課題について各大学の引率教員の立場から話題を提供してもらい、苦労話も含めた本音トークから次の方向性を展望するワークショップを行う。

〔話題提供〕

追手門学院大学（原めぐみ）、大阪女学院大学（馬淵 仁）、龍谷大学（友永雄吾）ほか調整中。

〔話題要素〕

①実施時期・期間・費用負担、②受け入れ大学・プログラム、③対象学生・選考方法、④危機管理システム、⑤カリキュラム・マップでの位置づけ、⑥教育効果の可視化など

6. 会費納入のお願い

年会費の請求は年度の始まり4月に行いますが、年会費が納入されると、納入時期にかかわらず未払い年度がある場合そこへ充当されます。たとえば2018年5月に年会費を納入しても、2017年度未払いの場合、それは2017年度の会費となります。すなわち、2018年度は未納ということになります。また2016、2017年度未払いの場合、2016年度分の会費納入になります。

＜2018年度分会費及び会費が未納の会員の皆様へ＞

会費が未納の皆様へは、請求を別便にて送付します。未納年度分（2017年度を含め最多3か年）を速やかに振込票にて納入願います。未着のかたはアカデミーセンター「オーストラリア学会」担当あてまでお知らせ願います。なお、会費振込票に会員名の記載がない場合、振込会員を特定できないため、必ず会員名をお書きください。また原則領収書は発行していません。郵便振替票の受領書などをご利用願います。

会費未納の会員の皆様には、当該年度の会費納入が確認され次第、学会誌『オーストラリア研究』（現在2018年3月発行、第31号）までをお送りしております。事務局では3か年分の在庫を保管しておりますので、順次発送しておりますが、お手元に届くまで若干時間がかかる場合もあります。会費納入にもかかわらず未着の学会誌がありましたら、恐縮ですが、学会事務局（アカデミーセンター）にご連絡ください。

7. 「マイページ」登録と内容更新のお願い

オーストラリア学会では会報を電子化しています。ただし、学会直前号は他の配布物と併せ紙媒体での発行を当分の間継続します。会報電子版は学会ウェブサイトに掲載されますが、発行のお知らせについては「マイページ」に登録されています電子メール宛てとなります。アドレスの登録・確認・更新をお願いいたします。

8. 『オーストラリア研究』投稿募集および研究文献目録掲載のお知らせ

オーストラリア学会では、『オーストラリア研究』に掲載する論文を募集しています。投稿はいつでも受け付けております。投稿を希望する会員は、早めに研究担当理事・加藤 (kato@sw.meisei-u.ac.jp)にご連絡ください。2019年1月5日付で投稿要領を改訂しました。改訂版の投稿要領はウェブサイトをご参照ください。またこの改訂に合わせて投稿申込書も新しくなりました。こちらもウェブサイトからダウンロードしてください。2019年3月刊行予定の第32号の投稿は2018年8月末で締め切りました。31・32号に掲載された論文は「第3回オーストラリア学会優秀論文賞」の対象となります。

第12号以降、会員の研究文献目録を掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などの中から、オーストラリア学会の趣旨に関係する研究文献を選び、電子メールでお知らせください。締め切りは2019年10月30日です。記入例はバックナンバーを参照し、掲載書式に準ずる形でお送りください。

投稿先 〒162-0801

東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター「オーストラリア学会」担当

TEL: 03-5937-0249, FAX: 03-3368-2822, Email: asaj-post@bunken.co.jp

9. 新刊書のご案内

ヘレン・ガーナー (加藤めぐみ 訳) 『グリーフ：ある殺人事件の物語』現代企画室 (2018年11月刊行/四六判/352ページ/2,500円+税)

オーストラリア屈指の実力派作家が取り組んだ、衝撃の裁判ノンフィクション! 父親が運転する車が貯水池に落ち、3人の息子が溺死。これは不幸な事故なのか、それとも別れた妻への復讐なのか? 真相究明を求める法廷で繰り広げられた「悲嘆(グリーフ)」のドラマ。(出版社ウェブサイトより)

10. 事務局連絡先変更のお知らせ

アカデミーセンターの施設移転に伴い、事務局の連絡先が変更となりました。新住所につきましては、下記の奥付をご参照ください。

【諸届出/連絡先】

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター「オーストラリア学会」 担当
TEL : 03-6824-9372 FAX : 03-5227-8631 Email : asaj-post@bunken.co.jp

【オーストラリア学会事務局】

〒157-8511 東京都世田谷区成城 6-1-20 成城大学経済学部 花井清人研究室気付
TEL 03-3482-9403 E-mail : khanai@seijo.ac.jp
会費振込先 : 00190-3-157063 加入口座名 : オーストラリア学会

※ 本会報は学会記録のほか、会員からのご意見や著書・新刊情報などを掲載します。学会事務局までお送りください。なお紙面の制約上、掲載できない場合がありますことをご了承ください。

[編集担当 : 濱野健 (北九州市立大学) / 編集協力 : 藤岡伸明 (静岡大学)]